

# 嬉野市未来技術地域実装協議会

(資料－ 1)

前回協議会結果及びP T会議の報告

令和4年3月30日

## 第2回嬉野市未来技術地域実装協議会

日時：2021年12月23日（木）14:00～15:30

場所：嬉野市文化センター 2階会議室

1. 開会
2. 委員紹介
3. 議事
  - (1) 嬉野市未来技術地域実装協議会委員の追加について
  - (2) 各プロジェクトチーム会議の報告及び令和4年度実施事業の方向性について（案）
4. 質疑



## 主な意見

- ・VRの技術では、アバターロボットを入れてみても面白いのではないかと。佐賀県の取り組みの中でアバターロボットに取り組んでいるところがある。適宜状況を共有したい（佐賀県）
- ・**「嬉野市に来てもらう」視点**で考えると、博多駅や羽田空港で取り組んで紹介するべきではないか。（嬉野市商工会）
- ・100人の障がい者がいれば100人のバリアフリーがある。「一人も漏らさず、どんな人でも旅行で利用できます」というのが**バリアフリーツアーの観点**として取り組んでいるので、こうした考え方も取り込んで行っていただきたい。（嬉野市商工会）
- ・パーソナルモビリティと自動運転について、これまで乗ったことが無い方も多いと思う。まず委員の方から試乗会などの機会を設けるなどを考えてみてはどうか。夕べ前においても、個人の趣向を入力するとモデルツアーを組んでもらうような、案内や交通も含めた**「観光型MaaS」**も必要ではないか。（国土交通省）
- ・観光客の増を狙いながらも、一方で人口減少・担い手減少が現実にあるため、**省力化・省人化し、かつ収益に繋がる**といった目標を示すことが重要。**人材育成の観点**で、佐賀大学との連携、若者の活用なども必要。高齢者や障がい者が買い物体験をするという点で、**決済システムの導入**も重要。（まちづくり嬉野）
- ・新幹線開業、新駅設置と注目が集まるので、その時に自動運転サービスがあった方が、インパクトがあってよいのではないかと。（嬉野温泉旅館組合）

## 嬉野市未来技術地域実装協議会PT1会議

日時：2022年2月22日（火）13:30～16:00

場所：嬉野市文化センター 2階

1. 開会
2. 嬉野市 松尾 新幹線まちづくり課長 あいさつ
3. 事業の経緯、前回振り返り
4. 今後の取り組み
5. 意見交換



### 主な意見（各自；敬称略）

- ・嬉野と言えば温泉、茶、陶器の3つを他地域の方には紹介している。**新幹線開業にあたり、集客のためこの3つを広めていかなければならない**。例えば、新幹線駅にお茶が出る蛇口や陶器を使った綺麗なトイレを設置するなどが考えられる。トイレに関しては、まち全体で綺麗なトイレを設置する取り組みを行うと面白いのではないか。（嬉野市 学校教育課 山田）
- ・運用管理していく人材が最大のキーポイントだと思っている。今後も、誰が継続して運用管理していくかとそれをフォローする体制づくりには注視していきたい。（嬉野市 観光商工課 笠原）
- ・シニアの方など普段デジタルに触れていない方にとっては、TIGの活用やアバター作成は少し敷居が高い。幅広い世代の方たちが参加しやすい仕組みづくりを考えていくべき。（嬉野市 茶業振興課 森永）
- ・**他の地域にないような掘り出し物がまだ眠っている**と思う。そのような掘り出し物を取り上げていけば、また今までと違ったアプローチができると思う。（テレビ九州 西川）
- ・**運営していくときの人的なリソース、コスト等のボリューム**がどのくらい必要なのかわからない。運用開始後、ブラッシュアップやメンテナンスも必要と思う。本当に実現可能なのかもしれないがもう少し精査が必要だと感じている。（嬉野市旅館組合 松本）
- ・DMOを立ち上げた際には、多くのコストや人的リソースがかかった。事業を進めていくうえで、行政と民間が連携していく必要がある。**DMOとしても、今後も連携していきたい**。（嬉野温泉観光協会 山口）
- ・ツールの開発と同時に、**嬉野人たちによるターゲティングリサーチ機能と人材組織機能を構築することを最終目標**としていきたい。（まちづくり嬉野 古田）
- ・インパクトのある動画だったとしても、実際に現地に行くと印象が違ふと感じられる方が多い。あまりにもいい印象を与えすぎてもがっかりさせてしまう。**取り上げられた人が輝き続ける、成長し続けられる、モチベーションを保ち続けられるような動画**ができないかと思っている。システムができたときに地元の方にまず活用してもらいたい。（うれしの元気通信 松本）

## 嬉野市未来技術地域実装協議会PT2会議

日時：2022年2月22日（火） 11:00～12:15

場所：嬉野市文化センター2階

1. 開会
2. 嬉野市 前川 新幹線・まちづくり課主任あいさつ
3. 事業概要説明
4. 久留米工業大学東教授より取り組みの提案
5. 意見交換



### 主な意見（各自；敬称略）

- ・規制関係については、現段階では特に言えることはない。具体的なイメージが固まれば、規制等に関する協議やアドバイスができると思う。（鹿島警察署 清水）
- ・国道34号沿道に「道の駅うれしのまるく」を今秋整備予定である。この道の駅が情報発信基地となる予定なので、ぜひ東先生の実証実験の走行ルートに加えていただきたい。（佐賀国道 赤星）
- ・ルート案が具体的になってきた段階で、**実際に乗って走行することによって、イメージが湧きやすくなる**。カート型であれば安価で用意しやすいと考えられるため、未来型だけでなくカート型も組み合わせると良い。（九州地整 木村）
- ・近隣に**医療施設**があるので、外に出たい入院されている方の要望に応えるような車イスによる試乗会を行ってはどうか。公道を走行することはまだ危険だと思うので、安全性が確保できたら行って良いのではないかと。（再耕庵タクシー 山本）
- ・**道路の舗装など自動運転車両への対応が今後必要**になると考えている。将来的には自動運転に関係なく道路整備は必要だが、さらに取り組みを強化していく必要があると考えている。（嬉野市 建設課 志田）
- ・パーソナルモビリティ、まちなか自動運転サービスについて、各々取り組みの手順や難度があり、今後4～5年の最終目標は異なるところが出ると思う、**各々最終目標を定めて動くのが良い**。パーソナルモビリティは障害者の移動手段や駅前でのコンテンツ体験、まちなか自動運転サービスは物流など中期目標のマイルストーンの置き方が重要。（まちづくり嬉野 古田）
- ・屋外だと天候に左右されるので屋内の代替案を用意しておくべきではないかと。（嬉野市 企画政策課 坂本）
- ・自動運転のような取組がうまくいけば**定路線の先が見えてくるのではないかと**思っている。（JR九州バス 納所）
- ・公道での実証実験を行うとなると、**安全性に関するこれまでの実績や実験時の監視体制等の確認・協議も必要**となってくる。走行ルートや車種等が決まれば、早め早めに協議を行いたい。（佐賀県警 交通規制課 斎藤）
- ・**事件・事故等で、責任の所在を明確にする**必要がある。サポートしていきたい。（鹿島警察署交通規制係 内田）